

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	設計・監理者における建築紛争の回避に関する研究
Title(English)	
著者(和文)	澤田正樹
Author(English)	Masaki Sawada
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11806号, 授与年月日:2022年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:奥山 信一,安田 幸一,中井 検裕,竹内 徹,藤井 晴行
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11806号, Conferred date:2022/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(博士課程)  
Doctoral Program

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	建築学 建築学	系 コース	申請学位 (専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(工学)
学生氏名： Student's Name	澤田 正樹		指導教員 (主)： Academic Supervisor(main)	奥山 信一	
			指導教員 (副)： Academic Supervisor(sub)		

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は、「設計・監理者における建築紛争の回避に関する研究」と題し、以下の 6 章より構成されている。

第 1 章「序論」では、近年の建築紛争の増加および長期化傾向と、法令遵守を担保する設計図書起因して設計・監理者が建築紛争に巻き込まれやすい社会的背景を踏まえて、設計・監理者が主体となって社会システム更新も視野に入れた紛争回避方策を構築する研究の必要性和意義を述べた上で、それらを検討するための資料として、調停成立後に調停委員が作成した調停実績報告書、および建築紛争事件が建築専門誌に掲載された記事を取り上げることの妥当性、および本論文の目的が、建築生産の過程上あるいは建物の使用上において不利益を被った原因を争う民事事件である建築紛争において、それが複雑に発展する仕組みとそこに介在する責任範囲の不明確さを探ることで紛争の発起点を明らかにし、およびその知見をもとに建築紛争の内容に応じた責任範囲の特徴と設計・監理者による紛争回避方策を提案するものであることが示され、併せて、研究の方法および概要が述べられている。

第 2 章「調停事件による建築紛争に至る仕組み」では、調停実績報告書における当事者の種類と法的責任、および責任追及に至った具体的な理由を抽出し、それらを分類・整理することから、当事者ごとの責任追及の構造の比較、および紛争の発生原因を多様化させる根源的な要因を検討している。その結果、当事者間における法的責任の追及方向による類型と、当事者の関係を多様化させる法的責任の種類を見出し、さらに責任追及の構造と法的責任の追及方向による類型との比較を通して、建築紛争の不明確さに共通する事象を抽出し、建築紛争の複雑に発展する仕組みが責任範囲を不明確にしやう設計図書の不備に起因することを明らかにしている。

第 3 章「事業進行の阻害による建築紛争の傾向と設計・監理者による回避方策」では、第 2 章の知見をもとに、事業進行が阻害されることで建築紛争に発展する事件が建築専門誌に掲載された記事を分析資料とし、資料から読み取れる設計図書の不備の内容、事業進行の阻害要因、責任追及された当事者および建築紛争に精通した弁護士による回避提言の内容を分類・整理している。その結果、建築紛争発展の状況に応じた当事者の責任範囲タイプとその特徴を見出した上で、タイプ毎に応じた紛争回避方策として、法解釈の明確な理由付けとリスク分散、第三者の視点に立った事業理解と利益相反関係者への配慮の徹底、不測の事態を想定したチャートの作成を提案している。

第 4 章「不具合から発展する建築紛争の傾向と設計・監理者による紛争回避方策」では、建物完成後の不具合から建築紛争に発展する事件が建築専門誌に掲載された記事を分析資料とし、そこから読み取れる不具合の原因となる設計図書の不備の内容、建物完成後の不具合の内容、責任追及された当事者および建築紛争に精通した弁護士による回避提言の内容を分類・整理している。その結果、建築紛争発展の状況に応じた紛争回避方策として、専門分野以外の技術面への関与、注文者および近隣者への

事業説明、設計段階以降の関係者との調整、不具合に対する最後の防波堤としての監理者の自覚などの徹底化を提案している。

第5章「紛争回避方策のための設計図書に対する提案」では、前2章で得た設計図書の不備に起因する争点のなかから、部位に関する争点と手続き面に関する争点毎に、当事者の責任がおよぶ対象と範囲、および紛争に発展した要因を整理し、それぞれに該当する回避提言の内容を再検討している。その結果、第3章および第4章での提案を再構成した設計・監理者における紛争回避方策として、事業当初から経緯を透明化する設計プロセスシート of 設計図書への内包、および利益相反する建築関係者を束ねる統括責任者の設置の制度化が有効であることを示している。

第6章「結論」では、以上各章で得られた結果をまとめ、本論で得られた知見を総括している。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)  
Doctoral Program

## 論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	建築学 建築学	系 コース	申請学位 (専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(工学)
学生氏名： Student's Name	澤田 正樹		指導教員 (主)： Academic Supervisor(main)	奥山 信一	
			指導教員 (副)： Academic Supervisor(sub)		

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

In Chapter1, Architectural-disputes have recently tended to increase and prolonged, and architects are involved in Architectural-disputes because of the recent economic condition and compliance. For these reasons, studies into research for pathways for architects to avoid Architectural-disputes including the renewal of the social system are urgent. So, this study clarifies the causes of the Architectural-disputes, and proposes pathways for architects to avoid the Architectural-disputes.

In Chapter2, by analyzing CONCILIATION REPORTS which can find the origins of the disputes, this study makes it clear that there is the mechanism that leads to Architectural-disputes because of the inadequacy of the architectural design document.

In Chapter3, by analyzing journal articles included advices from the lawyers about project interruption by Architectural-disputes, this study proposes for architects to avoid troubles as follows. 1.Designers should understand the base of the legal interpretation and should confirm them to everyone who are concerned. 2.Designers should understand and consider the people's interest which conflicts each other by an impartial eye. 3.Designers should predict the whom will be involved in the project in the future, and make efforts to create and maintain good relationships between them.

In Chapter4, by analyzing Architecture-disputes found in architecture journal articles included advices from the lawyers about building defects, this study proposes for architects to avoid troubles as follows. 1.Designers shall see things from different angles. 2.Clients shall understand the project and explain to neighbors. 3.Designers and supervisors shall coordinate with the project party after design phase. 4.Supervisors shall be aware of being the last barrier against building defects.

In Chapter5, by analyzing the articles about Chapter3 and Chapter4, this study clarifies the causes of the disputes, and reconstructs the pathways for architects to avoid Architectural-disputes. Based on these, this study proposes the system as follows. 1.The design process sheets should be included in the architectural design document. 2.The general manager system should be incorporated for each project.

In Chapter6, this study summarizes the contents, and explains the prospects for avoiding Architectural-disputes.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).